

とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	東京都小金井市本町 6-9-41
園名	アスク武蔵小金井南口保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

外国について知ろう。それぞれの国の国旗や文化、その背景について興味関心を持つ。

<テーマの設定理由>

少しずつ「ここは日本だね。」と自分の住んでいる国を理解し始めている。国旗カード、地球儀を用いて外国についての知識を得る。外国人講師の出身地の文化を知る。また、各国の有名な食べ物やスポーツなど様々の国の地理や文化について興味を持ち、探求を深める。

2. 活動スケジュール

1 1月から3月まで月1回行う。まずは講師の国の文化を知り日本以外にも国があることを伝える。少しずつ他の国の国旗と有名なスポーツや食べ物を伝える。

様々な国があることを知ったうえで国旗づくりをする。

1 1月 他国と日本の国旗や有名なスポーツについて学ぶ。

1 2月 他国と日本の国旗や有名な食べ物について学ぶ。

1 月 フラッグを描く。

2 月 気に入った国を発表する。

3 月 自己紹介とともに気に入った国を発表する。

・プリント→すくわくの時間だけでなくその後も配布された国旗のプリントをおさらいする時間を設けた。

・国旗の塗り絵→自由に塗ったり見本の通りに塗ったりした。

・国旗のイラストカード

・様々な国のスポーツカード

・様々な国の有名な食べ物のカード

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

【三歳児】

他国と日本の国旗や有名なスポーツ、食べ物について学ぶ。

【四歳児】

他国と日本の国旗や有名なスポーツ、食べ物について学ぶ

【五歳児】

他国と日本の国旗や有名なスポーツ、国の名産の食産物などについて知る

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

【三歳児】

塗り絵ではグループに分かれ塗る時間を設けた。「ここは何色にしようかな。」
ここの星は何色だったっけ？と子どもたち同士話し合う姿が見られた。

英文での自己紹介では三歳児にとってレベルが高く意味を理解することが難しい様子が見られた。最後まで英文をスムーズに言える子どもがいなかったが、保育者のフォローにより発音してみようとする姿も見られた。

【四歳児】

自分の描いた国旗のプリントを持って、自己紹介をし、描いた国名を発表する。
スラスラ発音する子は少なく、講師に続いて発音を真似ていた。自分の住んでいる日本が印象としてあり、日本を描く子がほとんどだった。その一方で、韓国やアルゼンチンを描く子がいた。

【五歳児】

キャストの自己紹介を受けて、自分たちでもまずは自己紹介を英語で話してみる機会を体験した。保育者が「マイネームイズ〇〇」「アイムフロムジャパン」とカードを用い、子どもたちをサポート。アメリカの代表的な食べ物や、スポーツ、日本の寿司、相撲、富士山などをを紹介し、それぞれの国の特色を伝え合った。・国旗の特徴を日本語で答えたりしつつ、英語に置き換え、発音していた。スイスはヨーロッパにあるんだよ、など、自分の知っていることも周囲に知らせる姿も見られた

<振り返りによって得た先生の気づき>

【三歳児】

簡単な英単語を知っている子どもたちが多いのでできることを伸ばし楽しめるような雰囲気を作った。三歳児には難しい内容だったため、事前にねらいや進め方などを講師と確認するべきだった。楽しい雰囲気づくりが子どもの意欲へと繋がるので、保育者も楽しむ姿を見せていった。

【四歳児】

・自己紹介で名前を講師に知らせる際、下の名前ではなく、苗字から話す子が多かった。下の名前だけでいいことを知らせてからは、講師も子どもたちの名前を理解できていた。・好きな食べ物を聞かれたときに、大半の子が果物やお菓子の名前を話していた。

子ども自身、食べ物の概念にそれらも含まれているようだが、講師は納得ができていない様子だった。どうやって伝えるべきか悩ましかった。

【五歳児】

・活動を通して、様々な国に興味を持ったため、地球儀で、覚えた国がどこにあるか探す活動にもつなげていった。日本の位置を中心に、ずっと遠いところにあるね、裏になっちゃうよ、など世界の広さを実感する子もいた。



とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	東京都小金井市本町 6-9-41
園名	アスク武蔵小金井南口保育園

1. 活動のテーマ

オノマトペってなんだろう？生活の中で耳にする、言葉でない様々な音に関心を持つ。音を聞くとどんな気持ちになる？様々な音を聞き、イメージしたり、様々な感覚を得る。

<テーマの設定理由>

日々のおんがくのレッスンや発表会の演奏などを通して、“音が鳴る”ということに少しずつ興味を示している。どのような仕組みで音が鳴るのかを追究する楽しさを味わってほしいと感じた。

2. 活動スケジュール

11 月から 3 月まで行い、本物の楽器に触れたり保育室内の身近な物も音が鳴るということを知ったうえで音の仕組みについて学べるようにした。

11 月 オノマトペを探す

12 月 身近なもので音を鳴らす

1 月 様々な音・音はどこからどのように発声するものがあるのか

2 月 楽器の振動の種類を仲間分けする

3 月 楽器を実際に鳴らして、鳴らし方を体感、音を聞いて、どのように響き音が出ているのか？

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・ 楽器（カスタ・タンバ・ウッドブロック等）
- ・ 楽器カード・楽器の種類が書いてある画用紙
- ・ オノマトペ絵本・Bluetooth スピーカー

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

【三歳児】

オノマトペってなんだろう？

【四歳児】

生活の中で耳にする、言葉でない様々な音に関心を持つ。

【五歳児】

様々な音を聞き、イメージしたり、様々な感覚を得る。

<活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり>

【三歳児】

ビンゴではイラストを見て「あ、とりのなきごえがする」と耳を澄ます様子がある。実際に楽器を鳴らす場面ではトライアングルの本体を持って鳴らす音と、紐だけを持って鳴らす音の違いを知る。そこから音の鳴り方には気鳴、体鳴、膜鳴、弦鳴、電鳴があると知る。また、声を出すときに喉が震える現象も気鳴楽器のひとつだと学び、実際に喉を触って振動を感じていた。また、膜鳴楽器の膜という言葉を理解したことで、タンバリンなどの楽器を膜鳴楽器と認識する子も増えた。それぞれの楽器の特徴を掴むことでグループ分けがスムーズに行われていた。

【四歳児】

講師や保育者から音のヒントとなるように、繰り返し音を鳴らしてもらうことで、それに近い音を探せていた。また、自分の探してきた音が、合っているのか自信のない子もいて、友だちと同じ玩具の組み合わせにする子もいた。どんな音を各自探してきたのか、発表する場もあり、音を鳴らして見せていた。一方で、音を聞き分けることに苦戦する子もいて、発表の際に、「(自分の探してきた音が)他の子と音が違う」と気付く場面もあった。

【五歳児】音の大きさや、響きの重さを捉え、「カサカサより、少し重たい感じだよ」など音の微妙な違いを捉えようとする子もいた。ペットボトルにストローをこすり合わせる音を、ペットボトルの中にストローを入れたり、ラップの芯をペットボトルにこすり合わせたり、同じ音を表現しようと様々な発想を示す子もいた。小さいものは鳴らしても音が小さい、数をあつめると音が複雑になっていく、大きなものは大きな音が鳴る、など、いろいろなおもちゃの組み合わせで音が違うことに気付いた。気鳴・体鳴・膜鳴・弦鳴・電鳴楽器というものの震えるところが違うと呼び名が違う楽器があるということ、実際の楽器も一部見て知ることができた。楽器に興味を示す。

<振り返りによって得た先生の気づき>

【三歳児】

講師のねらいを知り、一緒に同じような声掛けをしながら参加したことで子どもたちの探究心を高めることができた。すくわくの後にも振り返る時間を作ることでさらに探求心が深まった。普段触れ合っている楽器の音の鳴るがあることを知ることができ、楽器以外にも身近なものはどのように音が鳴るのかを考える機会となり、子どもの「これはどうやって鳴らすのか」という疑問を一緒に追及し、楽器にも様々な種類があることを知る良い機会となった。少し難易度が高いと感じたが、難しいからこそ挑戦したいという子どもたちの意欲にも繋がった。

【四歳児】

講師や保育者から音のヒントとなるように、繰り返し音を鳴らしてもらうことで、それに近い音を探せていた。また、自分の探してきた音が、合っているのか自信のない子もいて、友だちと同じ玩具の組み合わせにする子もいた。どんな音を各自探してきたのか、発表する場もあり、音を鳴らして見せていた。一方で、音を聞き分けることに苦戦する子もいて、発表の際に、「(自分の探してきた音が)他の子と音が違う」と気付く場面もあった。

【五歳児】太鼓の膜が震えて鳴る、弦を弾くと響いて鳴る、その楽器本体の振動により鳴る（カスタネットなど）空気の塊を振動させることによって鳴る（クラリネットなど）違いを子どもたちなりに理解できてよかった。運動会で合図に用いた太鼓、クラスで歌っている「クラリネットこわしちゃった」のクラリネットなど、関係のあった楽器もより、身近に感じられたと思う。楽器に対して、興味を深められる体験ができて良かったと思う。音が鳴ることに、どのように音が出るものなのだろう？と今後も関心を持って行って欲しいと感じる。



とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	東京都武蔵小金井市本町 6 - 9 - 4 1
園名	アスク武蔵小金井南口保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

身体をつくりをしよう。自分の得意を見つけよう。記録を伸ばすにはどうすればいいかな。

<テーマの設定理由>

構成遊びの玩具を多く取り入れ、子どもたち自身が遊びを展開することや、充足感を大切にしている。そのため運動の分野でも自分の「できる」を大切にしたいという思いがあった。

2. 活動スケジュール

11月から3月にかけてすくわく活動を月に一回行った。11月の初回に体操の講師と共に、その場でのバランス測定、一分間の足踏み数の測定、柔軟性のチェック（膝を伸ばして腰を折り手が床に付くか）、ジャンプ幅の測定を行った。日々の遊びの中で、身体を動かし、その動きがどんな身体の部分の力が養われるか考える機会も設けた。グループに分かれて、ジャンプ・押す・引く・柔軟性・バランスを培う遊びはどんなものがあるかを考察した。それらでこどもたちが考えた遊びを繰り返し普段の保育の中でも行った。
11月の測定から、3月の測定値に変化があったかを計測した。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

体操用マット、ポイント用のラバーマット・リング、ライン、平均台、ロール平均台、バランスストーンなどを用いて、室内で体力テストを行う。タイムの測定にはストップウォッチを用いる。距離の理解が難しい場合は、印何個分、という風に記録を付けていく。得意分野のグループに分かれて、探究をする。

4. 探究活動の実践

活動の内容>

【三歳児】

自分の得意を見つけよう。記録を伸ばすにはどうすればいいか。

【四歳児】

体力測定をし自分の得意なことは何かを見つけよう。(走る力、ジャンプ力、バランス力。)

【五歳児】

自分の得意を見つけよう。走る力、バランス力、引っ張る力、押す力を使う遊びはどんなものか？

それらの遊びをすると、どんなふうに得意が増えるか？

<活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり>

【三歳児】

体力測定とはどんなことをするのか意味が分からない子が多くいたが、保育者と講師が分かりやすい言葉で伝えることで少しずつ理解する姿が見られた。実際に計測し自分の記録を喜ぶ子もいた。どんな遊びがあるか話し合いの意図を理解し、保育者が仲立ちとならずとも意見を出し合っていた。

【四歳児】

意欲的に取り組んでいた。子ども同士で記入された数字を比べ合う子も多く、喜んだり、悔しがったりする姿が見られた。講師からの「どんな遊びをしたの」という問いに、「しっぽ取りをした」「いっぱい走った」など、楽しそうに話していた。測定結果を視覚で確認することで、「記録が伸びた」と喜ぶ様子もあった。一方で、記録に関心のない子も数名おり、変化が感じられていない子もいた。

【五歳児】

柔軟チームは、床に手を付くかを競ったり、手を繋いで、お互いの手を引っ張り合いながら、前屈が楽しめるようにしていた。押す力のチームは、マットを立てて両側からチームに分かれて押し合うマット相撲を提案。マット越しに向き合う子どもたちの力量で、後ずさりしたチームが負ける。引くチームは綱引きを提案した。人数が奇数であったため、人数が少ないチームの方が力が弱くなる、男の子の身体の大きい子がいるチームの方が勝つよなど、人数や力の強さを考える子もいた。マットのふちを歩いて、マットから落ちないようにバランスを保って歩く提案をしたグループもあった。

<振り返りによって得た先生の気づき>

【三歳児】

項目ごとに数値化したことで一人ひとりの得意なことを知る機会となった。言葉だけでは意図も何をするかも伝わりづらいので引き続き適切な声かけを意識した。子どもたちから出た意見を目で見えて分かるように記した。日々の遊びの中で考えた遊びを積極的に取り入れることが難しく反省点である。今回限りで終わらせるのではなく継続させていき得意分野を増やし自信へと繋げていく。

【四歳児】

話し合いをもとに、室内活動や戸外で遊びを取り入れるようにしたり、5歳児と散歩に出かけることで、体を動かす遊びがより発展ししっぽ取りなども積極的に楽しめていた。レッスンまでの短い期間の中で、あまり変化を感じられなかったため、子どもたち自身も「記録を伸ばさないと」とプレッシャーを感じているようだった。今回した内容を日々の活動にも取り入れていきたいと感じた。

【五歳児】

子どもたちで遊びをどのくらい考えられるのか？と慮ったが、子どもたちで話し合い考え、意見を出せる力が育っていることを嬉しく思った。遊びの中での何気ない動きが、身体のどんな力を使われているのか気付くいい経験になった。ロープをたぐり、移動する、手押し車で進むと、普段の保育ではあまり経験をしない活動もあったが、短い距離は出来ていた。腕の力は物を持ったり、運んだりするにも必要であるので、子どもたちが考えた押す力・引く力を使った遊びを、実践してみたい

